

牛群検定通信 No32

◇冬こそ体細胞数の改善を！◇

1) 体細胞数とは？

体細胞とは乳汁中に含まれる白血球と脱落上皮細胞その他を総称したもので、体細胞数の増加が酪農の天敵乳房炎とほぼ同義語であることはよく知られているところです。しかし、体細胞数の改善は乳房炎対策に留まらず、生産寿命の延長や高品質生乳生産など経営改善のキーとされています。

体細胞数は夏季に悪化する例が多いのが一般的です。しかし、比較的体細胞数が軽減する冬季に治療を徹底するなどの対策を講じておけば、その効果は大きく、夏季の体細胞数の改善にも良い影響を及ぼします。

2) 体細胞数の高い牛を探そう！

下述のとおり検定成績表では体細胞数の高い牛に記号を付けていますので、これを利用することで効率よく乳房炎罹患牛を発見できます。

様式A, B △ : 283 ~ 1131 千個以上 ▲ : 1132 千個以上
様式C # : 300 千個以上

3) 出荷乳の体細胞数の改善

様式A、Bでは検定成績表に掲載されている「高体細胞影響率」を利用することで、体細胞数が高い牛を生産ラインから除外し治療に専念した場合に出荷乳の体細胞数を何%減少させることができるかを知ることが出来ます。

例えば、高体細胞数影響率が17%と表示されている牛を生産ラインから除外すれば、出荷乳の体細胞数を17%減少させることが期待できます。

4) 体細胞数の傾向を掴み対策を立てよう！

事例 1) 分娩後日数が進むに連れて体細胞数がだんだんと高くなる

搾乳手順を再確認してみてください。特に過搾乳は厳禁です。搾乳の前処理、乳頭の清拭やディッピング、ミルカーの真空圧等を確認してください。

事例 2) 突然、体細胞数が高くなる牛がいる

乳房炎牛からの感染が疑われます。体細胞数が高い牛の搾乳は一番最後に行うようにします。また、前搾り乳の牛床への廃棄や糞尿等による牛床の衛生状態の悪化も原因となります。

事例 3) 分娩直後から体細胞数が高い（2産以上）

乾乳期の乳房炎治療が十分でなかったことが真っ先に考えられますがそれ以外にも、乾乳期の管理に問題がある場合もあります。例えば、乾乳直後 7～10 日程度のディッピングの継続、または分娩前に漏乳した場合のディッピング等を怠った、などです。

事例 4) 分娩直後から体細胞数が高い（初産）

育成牛の管理に課題があります。衛生状態等を確認してください。また、子牛に与える生乳に、乳房炎を罹患している廃棄予定の生乳を用いると、互いになめ合ったりし子牛の口腔から乳房炎に感染する場合があります。